

【参考資料】 2～5級審査（実科審査）の評価の視点

級審査の際に、審査員の先生方がどのような点に注意して審査しているかを以下に紹介します。
所属団体での少年指導にお役立てください。

平成21年12月15日作成

平成24年12月2日改訂

項番	着目点	評価の視点
1	着 装	<ul style="list-style-type: none"> ・面紐の長さ(40センチ) ・小手紐の垂れ下がり ・剣道着の背中のふくらみ、しわ ・袴の腰板の位置 ・防具の全般的な着装状況
2	立合前後の所作	<ul style="list-style-type: none"> ・立礼(相気、竹刀の持ち方)・・・相手への感謝の気持ちを持って行う ・帯刀、提げ刀の所作 ・三歩進む時のすり足 ・蹲踞の姿勢 ・竹刀の抜き方、納め方 ・五歩後退する時のすり足、五歩目の右足の引き付け
3	構 え	<ul style="list-style-type: none"> ・足の構え(左右が平行か、前後左右の間隔は適切か) ・左手の位置(臍前一握り) ・剣先の高さ(喉の高さ) ・右手、肩に余分な力が入っていないか ・竹刀の握り方(横握りにっていないか)
4	気 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ・腹の底から声を出しているか (声を出すことは技術の優劣には関係なく誰でもできるはず) ・特に立合い最初の気合いは思い切って声を出す (審査員に、よく見てみようという気にさせる)
5	切り返し	<ul style="list-style-type: none"> ・面打ちは大きく伸びやかに一拍子で打ち、打突後は体当たりせず腕をしっかりと伸ばす ・竹刀を打つのではなく正しく左右の面の位置を打つ ・左右面は上段の位置から回さずに打突する ・切り返し時の送り足、打突と足の運びの一致 ・切り返しを受けるときの歩み足、竹刀の持ち方
6	立合時の打突	<ul style="list-style-type: none"> ・腰の引けた手先の技ではなく、思い切った捨て身の技を出す ・中途半端の打突で終わらず、打ち切った技を出す ・打突後の残心